

松本市教育研修センターだより

No.8 令和4年12月8日

「研修での学び」を先生方に伺いました！

～ 「子どもも先生もわくわくする学校に！ 芳川小学校」 ～

今年度、松本市教育研修センターでは、「～〇〇主任お仕事ゼミ～ミドルリーダー研修」、「松本大学上月康弘先生と学ぶ小学校国語の授業づくり」、「佐藤茂太郎先生と明日の算数の授業を語り合う会」の3つの研修講座を企画し実施しています。芳川小学校では、この3つの講座に延べ12名の先生方に参加いただきました。そこで、センターでは学校に伺い、研修に参加した先生方に研修後の感想やその後の授業実践にどう生かしているかなどについて思いを語っていただきました。また、校長先生や教頭先生には、「研修意欲を高める学校」にするために、どんなことを大切にされているかなどについてお話をお聴きしました。

ミドルリーダーとして何をすべきか、具体的な姿が見えてきました！－学年主任 A 先生－

自分も年齢的にみてミドルリーダー的な存在だなと思っていたのですが、研修に参加し自分の中で意識改革をさせていただきました。ミドルリーダーとして具体的にどんなことをすればよいか曖昧だったので、具体的にどういうことをしてどういう姿であればよいのか教えていただけたのがとても有難かったです。若手を育てるのが大切な役目だと教わり、まずは学年主任として、コミュニケーションを密にとろう、ちょっとしたことでも学年で話をしようと心がけています。いざ、若手の先生方に任せるとアイデアを凝らしてやってくれるので、逆に若い先生方から教わるが多く、自分も刺激を受けて今やっています。本当にやる気に溢れていてすばらしい先生方だと自信をもって言えます。

子どもが主人公になる国語の授業づくりを目指して！－研究主任 B 先生－

今までわかっているフリをして国語の授業をやってきたような気がします。表題に「基礎から」と書いてあったので、行ってみたくなり参加しました。教材から授業をどうつくっていったらよいのか、国語の学習問題をどう設定したらよいのか、教材研究の仕方をどのように学年でやっていくのか教えていただきました。今は、上月先生から教えていただいたことをヒントに、「鳥獣戯画」で「1000年後に残したい日本文化を分析した高畑さんの技を使って表現しよう」を学習課題に、どう伝えたいことをまとめていくか、子どもが主人公になる授業はどうしたらよいのかを考えながら国語の授業づくりをしています。



子どもの立場になる、できることが増えていくのを見るのが嬉しい！－1年目の先生方－

○「もちもちの木」の研修に参加し、国語の教材研究の仕方がわかったので有意義な研修でした。私のクラスの子もたちは長い文章だと集中力がなくなってしまうので、短い文章でもいいので本人たちがわかるような国語の授業ができたかなと考えるようになりました。子どもたちができることが少しずつ増えていくのを見るのがとても嬉しいです。



○佐藤先生のお話を聴き、子どもたちの立場になって教材を考えられるようになって、その子が問題に出会ったときにどう考えるかなということを意識して、板書や授業の流れを考えるようになりました。今日の算数の授業でも「前の時間に図を書いて分数を使ったので、今日も図を書いて分数を使ってみよう」と、子どもが問題に出会ってどう考えていくかを意識しながら授業を進めるようにしています。

研修後に、学年や同僚の先生方と話し、教材について共有しています！ 一若手の先生方一

○国語の「ごんぎつね」の講座に出て、物語文って奥が深いんだなと感じました。授業をやる時に指導書通りにやってしまうことがあり、そこまで深く読み込めていなかったもので、そうすると子どもたちもあまり深くまで考えられずに終わってしまうので、教材研究の際に自分が深く読み込むことが大事だなと感じました。算数では、子どもたちが自分で使える引き出しを多くもっていることが大切だと知りました。同じ問題を解くにしても、いろいろなやり方があることを知っておくことで、自分に合ったやり方が見つけられて、子どもたちが自分に合ったやり方で答えを導き出せるようになったらいいなと思い授業づくりをしています。学年の中で声を掛け合い、みんなが同じ研修に出してしまうと同じものしか学べないので、いろんな所に出て学年の中で共有しようと話しました。

○今までどうやって教材研究をしていたのかなと悩んでいたのですが、「明日、授業をやってみよう」と研修を受けてから感じられるようになりました。算数で、1回自分で解いてみて子どもたちの考えを予想してからやるというよと教わったので、実際に今やっている「概数」の所でやってみました。いろいろ想像してもなお全然違う答えも返ってきたりしましたが、予想していたのでよかったこともありました。自分で解いてみるということは、そこまでしっかりやったことはなかったのでアドバイスいただけてよかったと思います。



○自分は昨年度5年生で「大造じいさんとガン」をやったので、自分の授業を振り返り、授業評価ができたかなと思いました。研修後、自分の授業をこういうふうにしていかなければいけなかったなと一緒に研修に行ったC先生と、「こうかな、こうかな」と授業について話をして盛り上がりました。算数の研修では、深くそこまで考えきれてなかった部分が、考えることができたなと感じました。授業をつくるのにも研究授業じゃないとあんまり長い時間をかけてやらなかったもので、2時間ほど向き合って、他の学校の先生方と話し合いながら教材について一緒に考えていくということがとても勉強になりました。



ワクワクする学校に！ 研修により子どもの学びが豊かな学びになる！ 一校長・教頭先生一

○先生方が研修から帰ってきて、刺激を受けて目をキラキラさせて話す姿をみると有難い研修だったんだなと思うのです。今年は、子どもも先生たちも「わくわくする学校」をキーワードに、みんなで“わくわくする”取組をしたいなといつも話しています。先生方が研修に参加し“わくわく”した顔をみると、“子どもたちの学びが豊かな学びになっていく”この積み重ねが“わくわくする学校になっていく”と思うのです。研修から帰り「校長先生、『大造じいさんとガン』の授業をやりたいので、5年生の担任にしてください」なんていう先生もいて大変嬉しくなります。（校長先生）

○校長先生が願う「わくわくする学校」のためには、先生方が”チャレンジする“ことが大切になると思います。そのためには、職員同士お互いうまくいかなかったことも”認める“雰囲気が必要だと思います。先生方も子どもたちも失敗してもいいので新しいことに”トライ“していく姿勢があるのが嬉しいです。この先生方のやる気を認め、支えていきたいです。（教頭先生）

芳川小学校の先生方、取材へのご協力ありがとうございました。どの教室へ訪問しても温かい雰囲気でお迎えいただき、子どもたちの「こんにちは」という挨拶と笑顔が印象的でした。先生方の前向きで高い研修意欲が、学校・子どもの学びを深めていく原動力になると改めて感じました。